

2014年10月24日

北海道苫小牧市での木質バイオマス発電事業会社へ出資参画

住友林業株式会社（本社：東京都千代田区、社長：市川 晃、以下「住友林業」）は、三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、社長：飯島 彰己）、株式会社イワクラ（本社：北海道苫小牧市、社長：後藤 英夫）、北海道ガス株式会社（本社：北海道札幌市、社長：大槻 博）との共同出資により、北海道苫小牧市に苫小牧バイオマス発電株式会社（以下「新会社」）を設立し、木質バイオマス発電事業（以下「本事業」）を行うことについて本日、株主間協定書を締結しましたのでお知らせいたします。

本事業は、新会社が苫小牧市晴海町に発電規模約5.8MWの発電設備を建設し、再生可能エネルギー固定価格買取制度^{※1}を利用し発電事業を行うもので、2015年5月に着工、2016年12月の稼働を予定しています。

燃料の木質チップには、北海道の林地の未利用木材^{※2}を100%利用する計画で、本事業開始に伴い、新たに年間約6万トンの木材需要が発生する見込みです。これにより森林環境の整備が促進され、北海道における林業振興にも大きく貢献するほか、雇用の創出により地域の活性化にも寄与するなど、社会的な意義を幅広く有する事業となります。

住友林業グループは、2008年5月にインドネシアで同国初の木質バイオマス発電を開始し、日本国内では、2011年2月より神奈川県川崎市で建築廃材を主燃料とした、発電規模33MWの都市型バイオマス発電所（川崎バイオマス発電（株）^{※3}）の営業運転を開始しております。また北海道では、紋別市で間伐材など林地の未利用木材を主燃料とする発電規模50MWの森林型バイオマス発電所（紋別バイオマス発電（株）^{※4}）の建設を2016年12月の営業運転を目指して着手しており、今回の苫小牧市での事業参画は、当社グループにおいて国内3番目の発電事業となります。

当社グループは、これまでの木質バイオマス発電事業の経験を活かし、大小さまざまな規模の発電事業に取り組み、地域の特性や諸条件に適した環境エネルギー事業の展開を目指しています。今後もさらなる森林資源の付加価値向上を図り、環境に配慮したエネルギーの安定供給に貢献してまいります。

※1 再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）を用いて発電された電気を、一定価格で電気事業者が買い取ることを義務付けた制度

※2 間伐材や林地残材等の未利用資源（未利用の木材）

※3 住友共同電力（株）53%、住友林業（株）34%、フルハシEPO（株）13%の出資比率による共同運営会社

※4 住友林業（株）51%、住友共同電力（株）49%の出資比率による共同運営会社

苫小牧バイオマス発電株式会社 概要

所在地	北海道苫小牧市晴海町40番4
資本金	499百万円
出資比率	三井物産株式会社40% 株式会社イワクラ20% 住友林業株式会社20% 北海道ガス株式会社20%
事業内容	木質バイオマス発電
使用燃料	林地の未利用木材 年間約6万トン
主要設備	流動層ボイラー、蒸気タービン発電機

発電規模 発電端出力：約5.8MW（送電端出力：5MW）
年間発電量 約40百万kWh（一般家庭約10,000世帯分の年間使用電力量に相当）
設備稼働予定 2016年12月

以上

《リリースに関するお問い合わせ先》
住友林業株式会社
コーポレート・コミュニケーション室 大西・飯塚
TEL：03-3214-2270